

はじめに

すしの世界は広く楽しい

「すし」と聞くと、みなさんは何を思い浮かべるでしょうか。にぎりずしやちらしずし、のり巻き、家族で楽しむ手巻きずしなどいろいろありますね。どれもごはんを酢めしにしたものですが、もともとのすしは発酵^{はっこう}させてすっぱくなった魚だけを食べていました。これらのすしは、どこからきたのでしょうか。

また、日本各地には「これがすし？」とを感じるようなものが、地域^{ちいき}に伝わり形をかえて、いまも郷土料理^{きょうどりょうり}として作り食べられています。

みなさんの知るにぎりずしも江戸時代^{えど}に誕生^{たんじょう}し、そのあとに全国に広がりました。いまでは海外で「SUSHI」という言葉が通じるほど、世界中に広がってきています。

ふだんわたしたちが食べているすしに、どんな技術^{はいてい}が、どんな背景があるのか、いっしょにたずねてみましょう。知れば知るほどに、日本の食文化のひとつである「すし」のすばらしい世界を知り、楽しさがわかるはずです。



もくじ

すしの世界へようこそ！・・・・・・4

日本各地のすしを知ろう① 近畿・中国・四国・九州・沖縄・・・・・・4

日本各地のすしを知ろう② 北海道・東北・関東・北陸・東海・・・・・・6

すしの主な種類を知ろう・・・・・・8



すしの技を見てみよう！・・・・・・10

すし店のスゴ技①	にぎる・・・・・・10
すし店のスゴ技②	すしダネを作る・・・・・・12
飾りずしのスゴ技	巻きずし・・・・・・14
	ちらし花ずし・・・・・・15
すしロボットのスゴ技	にぎる技・・・・・・16
	まだあるすしロボットの技・・・・・・17



すしを作ろう！・・・・・・18

酢めしを作る・・・・・・18
細巻きを作る・・・・・・19
パンダの太巻きを作る・・・・・・20



進化するすしの魅力・・・・・・22

新しいすしの登場・・・・・・22
世界に広がる SUSHI・・・・・・24

もっとすしを知ろう・・・・・・26

すしの歴史・・・・・・26
江戸前ずしの誕生・・・・・・27
おすし屋さんのこと・・・・・・28
すしと祭り・行事・・・・・・30
すし職人になるには・・・・・・31



日本各地の和紙産地マップ

日本全国にはたくさんの和紙の産地があります。貴重な和紙文化を未来へつなげるために、手間のかかる和紙作りを、今も各地で続けているのです。

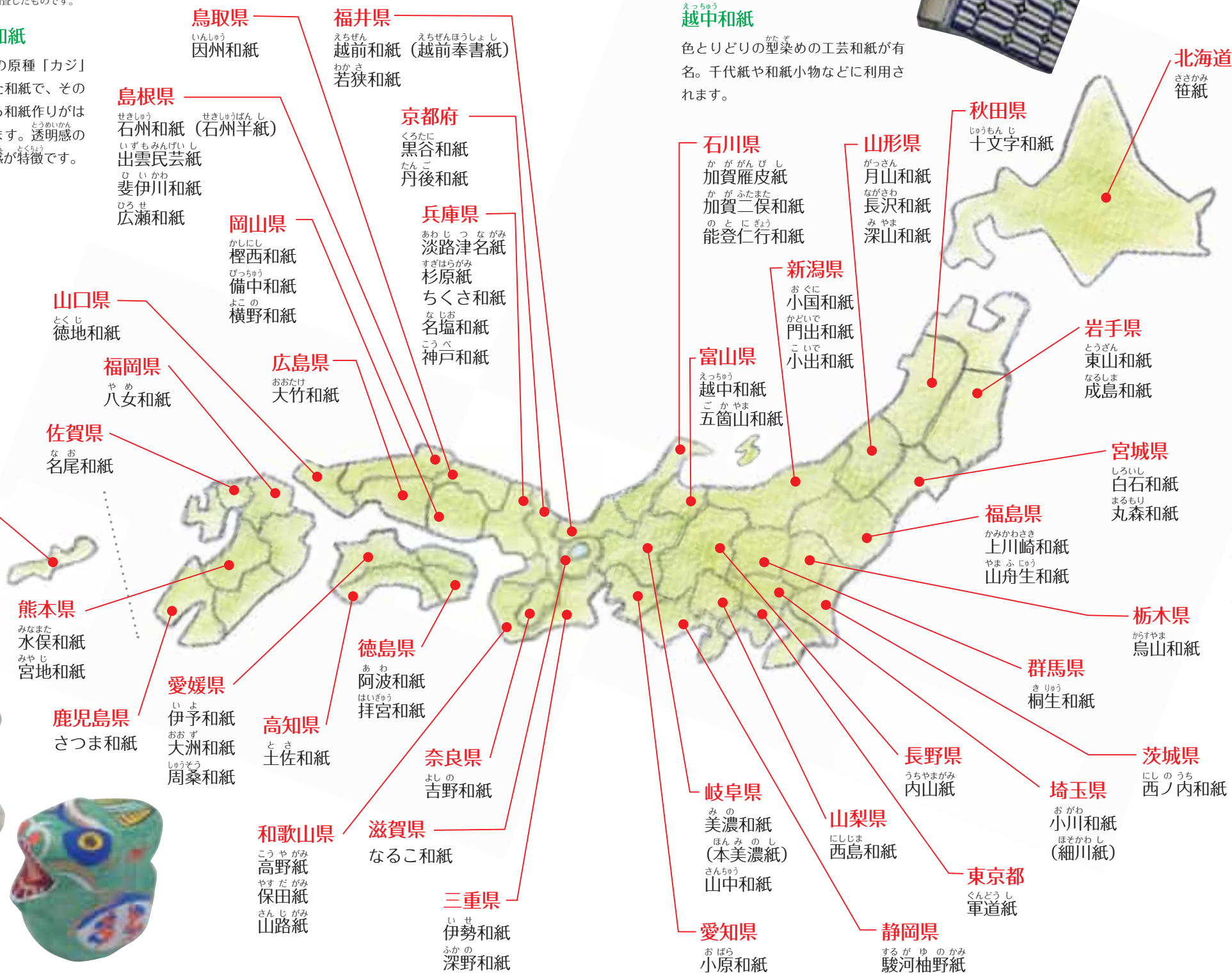
※このマップは、「全国手すき和紙連合会」の資料をもとに、2014年12月に調査したものです。



佐賀県
名尾和紙
コウゾの原種「カジ」を使った和紙で、その栽培から和紙作りがはじまります。透明感のある質感が特徴です。

岐阜県
美濃和紙
美濃和紙の特徴を生かした「岐阜提灯」。お盆や七夕かざりなどに使われます。

高知県
土佐和紙
全国的にも有名な和紙の産地。小物やインテリアなどに利用されています。写真はクジラ（上）とタツ（右）の「土佐和紙雁皮張り」。（→13ページ参照）



富山県
越中和紙
色とりどりの型染めの工芸和紙が有名。千代紙や和紙小物などに利用されます。



山形県
深山和紙
400年以上の歴史のある、コウゾを原料とした和紙。もみ紙も多く作られ、和紙人形などに活用されています。



岩手県
成島和紙
和紙の接着剤にノリツギを使い、そのノリツギが育つ本州の北限が岩手県となるため、最北の和紙といわれています。そばく風合いが特徴です。



福島県
上川崎和紙
二本松市では1000年をこえるコウゾ和紙の歴史があります。紫式部や清少納言が愛用した「まゆみがみ」が作られていたといわれています。



長野県
内山紙
美濃和紙の技術が伝わり、江戸時代に強靱な障子紙として有名になりました。そのしょうぶさを生かし、新潟県の「白根大風合戦」の大風（畳24枚分）にも使われています。

和紙の技を 見てみよう！

越前和紙（福井県）には、何百年も受けつがれる技があります。昔ながらの手すき和紙と、大量生産を可能にした機械すき和紙の技を紹介します。

すき終わった紙は簀とクレーンで持ち上げ、重ねていきます。



手すき和紙のスゴ技① 大きな紙も均一にすく技

材料の用意から紙すき・出荷まで、多くの人が協力し合い、よりよい紙作りを目指します。

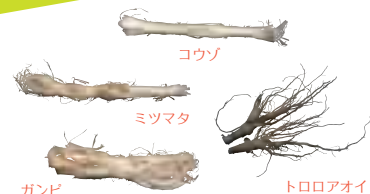
3～4人ですく大きな紙は、日本画用の和紙として特別に作られます。このすき舟は組み立て式で、倍の大きさの7尺（約2.1メートル）×9尺（約2.7メートル）にもなります。

すき舟

簀

手すき和紙 基本工程

1 原料用意 2 煮る 3 ちり取り 4 ほぐす



紙の原料となる植物と、つなぎとなるトロロアオイを用意。



原料に葉を入れて煮て、繊維をやわらかくし、白くします。



繊維をほぐしながら、ちり（ゴミ）を取ります。



繊維をほぐします。昔は木づちなどでたたきました。

5 「ネリ」作り



トロロアオイの根を水につけてねばりのある液体を作ります。これがつなぎとなるネリです。

6 紙料液を作る



水に、4と5をとかして、紙のもと（紙料液）を作ります。

7 すく



紙料液を何度もすくい、紙を作ります。

8 乾燥



1枚ずつ板にはり、乾燥室に入れます。外に干す場合もあります。

紙料液作りの技

和紙のもととなる紙料液は、植物の繊維とネリを水にとかしたものです。作る紙の種類により、植物やネリの濃度など、細やかに調整します。

ちり取り
ほんの少しのゴミも見がさない！



繊維を水にはなし、大きいちりから小さいちりまで、段階に分けて取りのぞきます。繊維は取らないよう、ていねいに。

ネリ作り
温度によってネリがちがう



ネリは温度が高いとねばりがなくなるため、とくに夏は作りおきができません。ちょうどよい濃度になるよう、複数の容器で管理します。

手すきの技

襖紙などの大きさの、2人ですく技を見てみましょう。

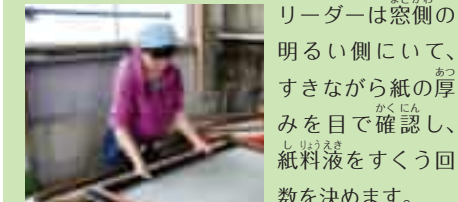


紙すき
光の透け加減でうすさを確認

呼吸を合わせ、交互に紙料液をすくい、少しずつ紙の厚みを作ります。紙料液が少なくなってくると、濃度がうすくなるので、数多くすく必要があります。

リーダーは窓側

2人以上ですく場合は必ずリーダーがいて、すべてをチェックします。リーダーになるには10年ほど修行をつみます。



リーダーは窓側の明るい側において、すきながら紙の厚みを目で確認し、紙料液をすくう回数を決めます。



数回に一度、一部を切りはずし、専用の機械で紙の厚さを確認します。

紙すきの流れ

以下が、紙すきの一連の流れです。これを何度も繰り返し、1舟あたり1日数十枚の紙を作ります。



すき舟に材料を合わせて紙料液を用意します。



簀で紙料液をすくい、生紙を作ります。



簀ごと移動して、生紙をぬらした布の上に重ねます。



簀をはずします。



上にぬらした布をかぶせ、生紙どうしがくっつかないようにします。

※2人すきの紙のサイズは、3尺5寸（約1メートル）×6尺5寸（約2メートル）。3・6制という。

花火のしくみを 知ろう

打ちあげられ、夜空に咲いて、
たくさんの人たちを感動させる
花火。どのようなしくみで、打
ちあげられ、花火の色はどうやっ
てつけるかなどをくわしく見て
いきましょう。

しゃくだまだいかいほう

尺玉大解剖

10号花火玉のひみつ

わりもの
割物花火の代表格、日本独特の尺玉（10号）は、
玉の直径約30センチ、重さ約8.5キロの花火
玉です。

※花火玉の大きさは号数でもよばれます。10号＝一尺。一尺玉は尺玉といいます。

星（星火薬）

花火の形、色、光などの基本を決める

おやみち 親導（導火線）

割薬に火をつける導火線

たまがわ 玉皮

打ちあげ花火の火薬を入れる容器

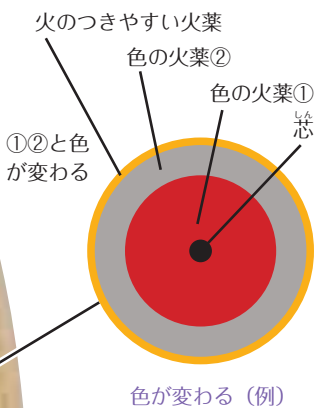
わりやく 割薬（割火薬）

空にのぼりつめたとき、
星を遠くに飛ばす火薬

しきり紙（和紙）

星と割薬を区切る紙

星の断面図



星

※実際の割薬や星の
色は黒です。

げんすんだい も けい
原寸大（模型）

しゃくだま 尺玉（10号）を 打ちあげたとき

花火玉が大きくなるほど、あがる高さも、上空で花火のひらいたと
きの大きさも変わります。尺玉は東京タワーの高さ（332.6メート
ル）近くまであがり、そこを中心としてひらいたときの大きさは、
直径約280メートルにもなります。これは横浜ランドマークタワー
（神奈川県横浜市）の高さ（296.33メートル）に近いものです。

